

◆◆ 熊谷リリースの指導者憲法 ◆◆

(ジュニアのスポーツ指導にあたり)

2009.5

- 1) 子供達が生まれて初めて本格的に出会ったスポーツ。その指導者が私達です。是非とも生涯に渡ってスポーツ好きな子に育てましょう。
- 2) 子供たちは指導者の言うまま素直に行動します。日頃からジュニア指導論の勉強を怠らないで、いろいろと学んでいきましょう。
- 3) 子供達を目線で子供を見てやりましょう。指導者の高圧的な態度・言動は慎むように心がけましょう。(指導の相手は10歳ソコソコの子供たちであることを忘れないようにしましょう。)
- 4) 指導者が子供たちを分析するように、子供たちも指導者をよく分析しています。子供たちの良い手本となるよう行動しましょう。
- 5) 欠点を指摘するより、良いところを褒めて、子供達のやる気を高めることが効果的です。

以下は子供達を指導するに当たって、知っておいて欲しい事項です。

- 指導者が「わかったかい？」と尋ねると子供たちは反射的に「はい!」と答えますが、十分に理解していないケースが結構あります(原因は指導者の説明不足、あるいは子供がポーっとして聞いていて全く聞いてないため)。そんな時は、ゆっくりとジェスチャーで見せたり、子供に言葉で言わせるなどして確認するようにし、伝えたい内容を印象づけるのが効果的です。
- サッカーは足でボールを扱うので、手を使うようには上手くは出来ません。でも、子供達に対して高い要求をしがちです。5回に4回は失敗して、1回成功するのがサッカーです。我慢しましょう。特に低学年の指導では我慢、我慢です。
- 対外試合などでは多くの周りの人達がリリースに関心を持って見えています。良識ある行動を取り、他から尊敬されるリリースを目指しましょう、そしてリリース仲間を増やしていきましょう。また保護者にもリリースとして節度ある応援をお願いしましょう。
- チームの主役は子供です。指導者や保護者は基本的には脇役です。
- 子供達にとって必要なことは、
・愛されること
・ほめられること
・役に立つこと
・人に必要とされること

以下の文章は [日本サッカー協会編「めざせベストサポーター」からの抜粋です](#)

子供の指導、日本人の特性、自立のための家庭の役割などについて書かれています。

- ◆私たちは、日本のサッカーを強くするために、子どもたちに何をどのように教えていったらいいのかわざとと考えてきました。初めのうちは、サッカーのプレー自体のことばかりに目を向けてきました。どういうプレーを、どういうふうトレーニングしていったらいいのだろうか。そういうことを中心に考えてきました。しかし、最近になって、「判断」が足りないことに気づきました。日本の選手は言われたことを言われたとおりやることには非常に優れていますが、とっさのとき、状況が変わったときに、自分自身で確かな判断を下して行動することが苦手です。
- ◆サッカーは広いピッチで11人の味方が協力し合って11人の相手に対し、1つのボールをめぐるプレーするスポーツです。しかもボールを足で扱うものなので、手を使うほど正確にはいかず、さまざまな状況が起こります。いつもコーチが指示したとおりのことばかりが起こるわけではありませんし、仲間と相談しながらやれるわけでもありません。そんな中で、いつも自分自身で状況を把握して、最善と思う判断をし、それに基づいて行動をしなくてはならないのです。決められたとおり、指示されたとおり、言われたとおり、だけでは、とても対応しきれないのです。自分で判断をする。その判断に責任を持つ。そしてみんなで協力して状況を解決していくために、自分の考えたことを相手に伝える。当たり前のように、なかなかできていないことです。
- ◆私たちは、子どもたちの自立を促したいと思っています。しかしそれは、ピッチ上、すなわちサッカーの試合やトレーニングの場の中だけで心がけていても決して身につけていけないことです。サッカーの場だけ、コーチに言われたときだけ、では、決して真の自立にはいたりません。学校や家庭、みなさんの協力が不可欠です。